

環境教育と平和教育と

人権教育の歴史的対話

「一人ひとり」の時代から「みんなで」の時代へ

気候危機、エネルギー安全保障をめぐる問題と原発再依存、ウクライナ戦争、核抑止戦略への依存、ポピュリズムの台頭、自由民主主義の衰退、市民社会スペースの縮小、COVID-19パンデミックの影響による人権侵害、ジェンダー不平等、LGBTQ+への人権抑圧、差別禁止法の制定および国連パリ原則に基づく国内人権委員会の設置の先送り、SDGsの進捗停滞等、今日わたしたちが直面する問題からも明らかであるように、世界は激動期にあります。これらの問題は相互に深く関係しあい、複合的な危機状況として現れ、社会的な連帯がもたれられています。

1972年に「かけがえのない地球」というテーマのもと、スウェーデンストックホルムで開催された人間環境会議では、環境教育の必要性について言及したほか、健全な環境のもとで生活する基本的権利（環境権）の保障や、核兵器等の大量破壊兵器の完全な放棄を謳った国連人間環境宣言が採択されました。それから50周年を機に、環境教育、平和教育、人権教育がたどった歩みを振り返りつつ、現在の到達点と課題を共有するなかで、環境教育、平和教育、人権教育との連帯をめざしたいと考え、本シンポジウムを企画しました。

多くの皆さまにご参加いただき、課題を共有し、協働に向けた足掛かりにしたいと考えています。第一線でご活躍される実務家、研究者をお迎えして議論する貴重な機会となりますので、ぜひ奮ってご参加ください。

2023.3.26日

14:00～16:40 (13:15～受付/開場)

25日(土) サイドイベント (根来山エクスカーション)

会場 近畿大学 和歌山キャンパス
(和歌山県紀の川市西三谷930)

参加費 1,000円 (当日参加可)

一般公開 会場 3号館 2・3階 アリーナ

14:00 開会挨拶 水山光春氏 (関西支部長)

14:05 公開シンポジウム「環境教育と平和教育と人権教育の歴史的対話」
趣旨説明 新田和宏氏 (実行委員長)

14:07-14:37 基調講演①

「平和教育からの歴史的対話と今後の展望」

川崎 哲氏 (ピースボート共同代表/核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN) 国際運営委員・会長)

*ICANは2017年にノーベル平和賞を受賞

14:38-15:08 基調講演②

「人権教育からの歴史的対話と今後の展望」

三輪敦子氏 (SDGs市民社会ネットワーク共同代表理事/アジア・太平洋人権情報センター (ヒューライツ大阪) 所長)

15:09-15:57 パネルディスカッション

【モデレーター】 新田和宏氏 (関西副支部長/近畿大学)

【シンポジスト】

川崎 哲氏 (ピースボート共同代表/ICAN国際運営委員・会長)

三輪敦子氏 (SDGs市民社会ネットワーク共同代表理事/ヒューライツ大阪所長)

水山光春氏 (京都橘大学)

後藤 忍氏 (研究委員長/福島大学)

15:57 閉会挨拶 中村和彦氏 (会長/東京大学)

※オンライン中継(ライブ配信)は実施いたしません。

※休日のため、学内のコンビニエンスストアが閉店しておりますので、昼食は各自でお持ちください。

※シンポジウム終了後、同会場内で交流会(名刺交換会)を予定しております。

参加申込み方法

参加人数把握のため、事前の参加登録をお願いしておりますが、当日参加も可能です(登録〆切:2023年3月22日(水)23:59)。下記URLより必要事項をご記入の上、参加お申込みをお願いいたします。



<https://forms.gle/z2bivMtw37LJ747cA>

川崎 哲氏

ピースボート共同代表/核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN) 国際運営委員・会長

2017年にノーベル平和賞を受賞した核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN) 国際運営委員兼会長 (2012～14年共同代表, 14年～国際運営委員, 21年～会長兼任)。核兵器廃絶日本NGO連絡会の共同代表として、NGO間の連携および政府との対話促進に尽力してきた。ピースボートでは地球大学プログラムや「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」をコーディネート。2009～2010年、日豪両政府主導の「核不拡散・核軍縮に関する国際委員会 (ICNND)」でNGOアドバイザーを務めた。恵泉女学園大学、立教大学などで非常勤講師。日本平和学会理事。著書に『核兵器 禁止から廃絶へ』(岩波ブックレット, 2021)、『核兵器はなくせる』(岩波ジュニア新書, 2018)など。2021年、第33回谷本清平和賞受賞。1968年東京生まれ、東京大学法学部卒業。

三輪 敦子氏

SDGs市民社会ネットワーク共同代表理事/アジア・太平洋人権情報センター (ヒューライツ大阪) 所長

日本赤十字社外事部、国連女性開発基金 (現UN Women) アジア太平洋地域バンコク事務所、(公財)世界人権問題研究センター等において、ジェンダー、開発、人道支援、人権分野のさまざまなプログラムの実施支援や調査・研究に携わってきた。国連ウィメン日本協会副理事長、関西学院大学SGU招聘客員教授も務める。SDGs推進円卓会議構成員。



モデレーター
新田和宏氏



パネリスト
水山光春氏



パネリスト
後藤 忍氏

集合場所：根来山げんきの森 (<http://genkinomori.jp>)
 インタープリター：岡田和久氏 (根来山げんきの森倶楽部 事務局長)
 集合場所への交通アクセス

【自家用車】

■京奈和自動車道(奈良和歌山区間)の「岩出根来IC」もしくは「紀の川IC」で降り、広域農道等を進み、約10分

【和歌山バス那賀】★時刻表、路線図の検索はこちらから

https://www.wakayamabusnaga.com/

南海本線 樽井駅またはJR和泉砂川駅からのアクセス

■「樽井駅前」から特急 近畿大学経由(岩出樽井線) 岩出駅前行きバスに乗車(12:25発)、「砂川駅前」(12:33発着)を経由し、「緑花センター前」にて下車(12:50着/所要乗車時間 約25分)。北側に敷設されている舗装された林道を徒歩1km。

■復路のバス利用

「緑花センター前」(16:21発)に乗車し、「砂川駅前」(16:41着)を経由し、樽井駅前(16:52着)にて下車。

先着申込み定員15名 ※参加申込みよりご連絡ください。

交通アクセス ● 近畿大学 和歌山キャンパス (生物理工学部)

★JR紀伊または南海本線 樽井駅からのアクセス

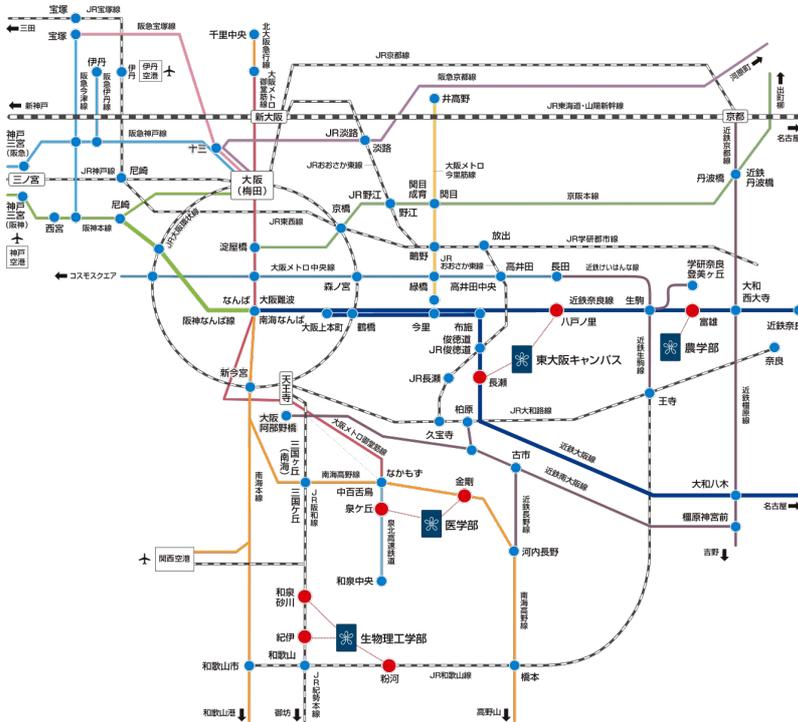
「紀伊駅前」から紀伊粉河線バスに乗車、「近畿大学(生物理工学部)」にて下車。もしくは「樽井駅前」から岩出樽井線(近畿大学経由)の市バスに乗車。

★関西国際空港からのアクセス

JR関西空港駅から日根野駅へ行き、阪和線に乗り換え、JR紀伊駅で下車。バス停「紀伊駅前」より近畿大学行きバスに乗車。

★自家用車で来学する場合

京奈和自動車道(奈良和歌山区間/無料高速)の「紀の川IC」より約5分
 * 関西国際空港から近畿大学生物理工学部まで約25km。キャンパス内の駐車場可。



梅田から 約1時間32分	JR 大阪	JR紀州路快速 約72分	バス 約20分 JR紀伊 生物理工学部
天王寺から 約1時間11分	JR 天王寺	JR阪和線快速 約51分	
和歌山から 約29分	JR 和歌山	JR阪和線快速 約9分	
奈良から 約1時間46分	JR 奈良	JR大和路線快速 約35分 JR 天王寺 約51分	

バス停留所は、キャンパス内に設置されています。JR粉河駅とを結ぶバスも運行しています。

会員限定【参加費 無料】

(9:30~ 受付/開場)

会場 3号館1階110教室

- 各研究プロジェクトの紹介
- 研究・実践奨励賞 表彰式
- 研究会 (分科会方式 10:30~)

●「SDGsの教育」研究会

【目的・活動内容】

- (1) ESD概念の背景と基本枠を確認し、SDGsの実現に求められる教育のあり方について研究する。
- (2) 日本環境教育学会監修『知る・わかる・伝えるSDGs』シリーズ本を刊行する。
- (3) ポスト・コロナ社会におけるSDGsの実現と環境教育の役割について研究する。

【代表者】朝岡幸彦(東京農工大学)

●「気候変動教育」研究会

【目的・活動内容】

緩和策及び適応策を通じた持続可能な社会づくりを目指して、政策マネージャー、教育コーディネイター、実践フロントランナー、普及啓発者、生活者・生産者一般を対象にした教育プログラムを研究する。

具体的には、(1) 教育プログラムの目標と原則等の設定、評価方法の共有、(2) 教育プログラムの開発と試行・評価、(3) 教育プログラムの普及のためのガイドブック等の作成を行う。

【代表者】白井信雄(武蔵野大学)

●「環境教育プログラムの評価」研究会

【目的・活動内容】

環境教育プログラムの評価に関する理論や手法の体系化を目的とする。具体的には(1) 環境教育の現場で応用可能なプログラム評価手法の開発と検証、(2) 環境教育プログラムの評価を行うために必要なプロセスの整理と発信を行う。

【代表者】中口教博(芝浦工業大学)

●「原発事故後の福島を考える」研究会

【目的・活動内容】

- (1) 原発事故の風化に抗うために、現地調査を継続し、調査の記録を取り続ける。
- (2) 福島県にある自然学校や森のようちえんにおける自然体験学習の現状と課題、福島県に自然体験学習の拠点があることの積極的意義を明らかにする。
- (3) 原発事故から10年が経過する中で原発事故に関する何をいかに伝えていくのか、その伝承のあり方を明らかにする。
- (4) 防災教育の中でも課題が大きい原子力災害を位置づけ、その方法について探る。

【代表者】石山雄貴(鳥取大学)

●「公害教育」研究会

【目的・活動内容】

- (1) 公害の経験を継承・共有し、そこから学ぶ公害教育の実践を掘り起こし、交流し、創造する。
- (2) 公害教育の実践について、その蓄積を国内外に発信する。

【代表者】高田 研(都留文科大学)

非会員で参加を希望する方は、学会ウェブサイト入会申込詳細を参照の上、3月10日(金)までに入会手続きを行ってください。

【お問合せ先】

一般社団法人 日本環境教育学会 事務局

〒206-0033 東京都多摩市落合2-6-1 株式会社インフォテック内

☎042-311-3355 e-mail office@jsfee.jp